

トピックに

きく

福井県美浜町

山口 治太郎 × 山本 貞二

(美浜町長)

(電源地域振興センター理事長)



町民との丁寧な対話を通し、理想的なまちづくりを進める美浜町。町の魅力をどう活かしていくか。また、原子力発電所立地地域としてすべきことは何か。住民と一体となり様々な先進的取り組みを進めている山口美浜町長にお話を伺った。

■福井県美浜町 (人口：約 11,000 人 面積：152.32k ㎡)

福井県の南西部に位置する美浜町は、北は日本海に面し、東は敦賀市、西は若狭町に隣接しています。海・川・山・湖という変化に富んだ自然の景観に恵まれ、若狭湾や三方五湖(美浜町には、久々子湖、日向湖がある)は若狭湾国定公園に指定されています。基幹産業は、農林水産業で、近年は観光業との連携による都市部との交流が活発です。また、「原子力と共生するまち」として、エネルギー・環境問題で先進的な取り組みをしています。

■発電所データ■

美浜発電所

出力：166.6万KW(1～3号機計) 運転開始：昭和45年11月(1号機)

事業者名：関西電力株式会社

■今号の表紙■

水晶浜 (福井県美浜町)



美浜町長

山口 治太郎 (やまぐち じたろう)

昭和18年生まれ。昭和37年建設省入省。建設省敦賀国道工事事務所を経て、大阪国道工事事務所工務係長、福井工事事務所建設監督官などを歴任。昭和63年より美浜町収入役、美浜町助役を経て、平成11年美浜町長に就任。現在3期目。



美浜町出身の五木ひろしさんを招いて行われる「美浜・五木ひろしまラソン」。



地元の人と交流をしながら美浜町の魅力に触れられる「若狭美浜はあとふる体験」。写真は漁業体験。



鯖のへしこ。「へしこ」は、魚のヌカ漬けて、若狭地方の冬の保存食。

美味しい食べ物と美しい自然が自慢の「美し浜」

山 本 美浜町といえば、ふぐ、あなご、へしこといった豊かな海の幸、三方五湖や水晶浜をはじめとした恵まれた自然景観など、魅力的な地域資源がたくさんありますね。

山口町長 山紫水明という表現がピッタリのまちです。若狭湾国定公園に指定されている海岸線は変化に富んだリアス式海岸で、「日本の水浴場88選」にも選ばれている水晶浜をはじめ十二の美しい海水浴場があります。また、平成十七年にラムサール条約登録湿地に認定された三方五湖や、耳川の清流、緑深い森林が「日本の縮図」ともいえる癒しの景観を形成しています。

これらの美しい自然が育んだ四季折々の味覚も盛りだくさんで、ふぐや寒ブリといった海の幸、湖からはしじみ、川では鮎、山ではわさびがとれ、特に伝統食である「さばのへしこ」は、県内の四割を生産しており、平成十七年には日本で唯一の「へしこの町」として商標登録しました。へしこ自体は昔から各家庭で作られていましたが、商標登録をきっかけに、「女将の会」という生産グループが発足し、現在では加盟八社がそれぞれの特色を活かしたへしこづくりに取り組んでいます。

山 本 美浜町ではその恵まれた自然環境を存分に活かしながら、平成十八年度に第四次総合振興計画を策定のうえ、平成二十七年を目標に魅力あるまちづくりを進めていますね。

山口町長 豊かな自然や産業、文化、食を体験できる七十五種類の体験プログラムを用意し、観光・交流人口の拡大に力を入れています。町民にはインスタクター役として活躍いただくなど、様々な協力をいただいております。今年三月に町内を主会場として開催された「第六回国ほんもの体験フォーラム in ふくい」では、ボランティアアスタッフの頑張りで成功を収めることができました。

また、美浜町を代表するイベントである三方五湖での「町民レガッタ」や、町出身で名誉町民でもある歌手の五木ひろし氏を招いての「美浜・五木ひろ



しまラソン」など、従来からの振興策を今後も着実に続けていきます。さらに、「人が主役のまちづくり」をすすめるため、平成十六年には「生涯学習のまち」を宣言するとともに、平成二十一年には「協働のまちづくり推進基本方針」を策定し、住民と行政が情報を共有しながらまちづくりについて学ぶ「共学」と、それぞれの役割や責任を分担し実行する「協働」に力を入れているところです。

原子力と共生するまち

山 本 山口町長が就任されてから十年以上が経ちますが、一番印象に残っていることや苦勞されたことは何ですか。

山口町長 一番苦勞したというか、勉強したのは、原子力関係の知識ですね。私は昭和六十三年に収入役に、平成十一年に町長に就任しましたが、最初は原子力の知識は全くなかったので、発電所の構造から交付金の制度まで一から勉強しました。平成三年には美浜発電所二号機の蒸気発生器伝熱管破断事故、平成十六年には三号機二次系配管破断事故が発生しましたので、その度に更に勉強を重ねました。二度とあのような事故を起こさないよう、再発防止に向けた徹底的な取り組みを事業者はもちろんのこと国へも求めています。

山 本 平成十六年の三号機二次系配管破断事故当時のことは、私も良く覚えています。放射能を含まない二次系配管の事故にも関わらず、「避難しなくても大丈夫か」という問い合わせが殺到したそうですね。

山口町長 マスコミの報道の仕方にも問題があったかもしれませんが、原子力発電所の基本的な構造を理解していない方が非常に多いことも事実でした。これを機に原子力に対す



電源地域振興センター理事長

山本 貞一 (やまもと ていいち)

昭和13年生まれ。昭和36年、通商産業省入省。新エネルギー総合開発機構本部を経て、科学技術庁原子力局長、資源エネルギー庁長官などを歴任。日本開発銀行理事などを経て、平成16年より、財団法人電源地域振興センター理事長。

る正しい知識の普及啓発活動を国へ要望するとともに、まず美浜町が先駆けてやっていこうと決めました。義務教育期間中に百四十時間程度エネルギー・環境教育を体系的に学べるように小・中学生向けの副読本を整備しました。小一では風の力、光の力からはじまり、小学校高学年では原子力発電所の見学も取り入れる。先生方も非常に意欲的で、夏休みに行うエネルギー・環境教育研修には、町内の小中学校教師百三十名のうち百名近い参加があります。無理に原子力賛成派を作るつもりはありません。正しい知識を身につけてもらうことで、各人で判断できるようにす

ることが最良の方法だと考えています。

山 本 素晴らしい取り組みです。まさしくエネルギー・環境教育のモデルケースだと思います。

山口町長 私の呼びかけで、隣町の境にある美方高校と(株)原子力安全システム研究所の交流が一昨年から始まり、理系の高校生がエネルギーをはじめ様々な勉強をさせてもらっています。また、福井大学や福井工業大学に原子力専攻の学科や研究科ができ、県のエネルギー研究開発拠点化計画においても、福井大学を中核とした関西、中京圏等大学の広域連携拠点として(仮称)福井

大学附属国際原子力工学研究所」を敦賀市に設置するなど、人材育成や研究機能の集積が具体化しつつあります。美浜町内では小中学校で既にエネルギー・環境教育を実施しているため、県内で小学校〜大学までのエネルギー・環境教育が一貫して展開できるようにするのが夢です。

山 本 美浜町が原子力発電所の誘致を決定してから、もうすぐ半世紀になるうとしています。常に我が国の原子力政策の最先端を担ってこられた功績には、ただただ敬服するばかりです。

山口町長 発電所を誘致できたのは、当時の綿田町長の先見の明と強い啓蒙指導、そして住民の方のご理解・ご協力の賜物です。綿田町長は立地地点である敦賀半島の先端(西岸)に位置する丹生地区まで単車で訪れ、住民と話し合ったといえます。当時丹生地区へは、車の通れないほどの細い砂利道しかなかったのです。

発電所ができることで半島に沿って道路が整備され、結果として水晶浜という美しい海水浴場が世に出た。これが最初の振興だったと思います。

山 本 発電所とまちが共存共栄し、良い関係を築いていくのが理想です。国も電源三法交付金制度を整備し、電源地域をサポートしています。近年では、まちづくりに重要な特産品の開発や人材の育成等、様々なソフト事業に活用いただけるよう

になりました。

山口町長…電源地域振興センターが実施する研修事業や調査事業等多数活用させていただき、人材育成や振興計画策定等に反映させていただいております。これからはハードよりソフトの時代ですから、こういったソフト面でのご支援は大変助かります。国からの交付金についても、一部を子育て支援事業に充当するなど、ハード整備だけでなくソフト事業への活用をすすめています。

原子力地域だからこそ描けるビジョンとは

山 本…交付金には原子力立地給付金や、最近拡充された原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業（F補助金）もあり、美浜町ではこの制度を活用した企業誘致にも積極的です。なかでも昨年竣工した野菜工場は、食の安全、食料自給率の向上などに寄与し、新たな雇用を生むものとして、現在国を挙げた支援が始まっています。初期投資が大きく、電気を大量に消費する施設ですが、F補助金で電気料金的大幅な補助を受けることのできる原子力発電所立地市町村であれば、農林水産省からの補助金や自治体独自の優遇措置を併せればペイできるのではないかと思っています。そんな矢先に全国に先駆けて野菜工場を誘致されたと聞き、感銘を受けました。

美浜町と隣町の若狭町にまたがる「三方五湖」。5つの湖は水路でつながっているが、それぞれの水質や水深が異なるため、湖面の色が異なって見える。平成17年にはラムサール条約登録湿地に認定された。

山口町長…完全制御型の野菜工場としては世界最大規模で、既に五十名近い雇用効果が

ありました。F補助金や当町の補助金・アクセスの良さ・自然環境、県のバックアップ体制など、様々な要素がプラスに働き、立地していただくことができました。今後ともまちに活力を与える企業の誘致に取り組んでいきたいですね。

ハートtoハートでまちづくり

山口町長…こうして発電所が立地、運転できるのも、企業誘致ができるのも、体験交流事業を推進できるのも、地元住民の方のご理解とご協力があればこそです。私は町長になってから、「ハートフル対話」という住民と膝を突き合わせた意見交換を毎年行っており、良いことも悪いこともすべてお伝えしたうえで、町政へご理解いただけるよう努力しています。すべての情報を開示した結果、町民からお叱りを受けたこともあり、特に税金の滞納が多いのには、多くのお叱りを受けました。徹底した対策を実施した結果、県下でもトップ3に入る徴収率に改善されました。これも、すべてを開示して町民の意見を聞いたからだと思っています。対話のなかで、発電所が所在している丹生区の高齢者の方から移動が大変なので鉄道を引いて欲しい、という要望もありました。鉄道までは無理ですが、翌年コミュニティバスを



エネルギー環境教育カリキュラム(右)にのっとり、小中一貫でエネルギー環境教育を行っている。

整備し、今も住民に活用されています。対話する内容は毎年見直していますが、原子力については、毎年必ず様々な項目を取り入れて説明するようにしています。

山 本…本日お話をおうかがいして、美浜町が今後とも魅力ある住みやすいまちへ発展していくと確信しました。

山口町長…今後は若者定住対策の充実や、健康づくりにも取り組んでいきたいと思っており、美浜町の理想である「自然かがやき 人がいきいき まちがにぎわう 美し美浜」を実現すべく、全力で取り組んでいきます。

山 本…本日はありがとうございます。